地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい言葉で、利用者が書いてくれた（直筆）理念を掲示している。特に、利用者一人ひとりの笑顔や穏やかな毎日を大切に考えている。	○	今までの理念を土台に、職員全員の意見を取り入れ、地域とのふれあいを盛り込んだ理念に一部変更した。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が把握し、理念を共通の目標とし、達成に向かって努力している。会議や日々の話し合いの中でも、常に意識した取り組みが実施されている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	機会あるごとに、理念について日々取り組んでいる内容などを話し、理解を求めている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺の散歩、近所の商店での買い物など、日々関わりを持ち、お互いが気軽に声かけができている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節の行事や老人会、子ども会などの地域活動に積極的に参加し、利用者の楽しみとなっている。	○	地域で定期的に開催している、独居老人を招いた食事会への参加について、民生委員が検討してくれている。地域の方とふれ合う良い機会になると思われる。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの行事の参加、また民生委員を通じて、地域の在宅の高齢者（特に独居の方）の方の悩みを聞き、相談に応じている。	○	何か具体的に貢献していけることがないか、検討し実施していきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、再確認している。改善すべき点が見えてくるため、具体的に実践している。また、外部評価により、第三者からの目で評価していただくことは、改善に向けて役立っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、日常の取り組みに反映している。質問の内容によっては次回に詳しく回答を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当の方に何度も相談し、指導していただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ必要な利用者はいないが、今後のことも踏まえて勉強していく必要がある。一部の職員は勉強会に参加できている。	○	勉強会の機会を設けて、活用の支援ができるよう全職員が学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修で学んでいる。日々の職員の態度や、利用者の状態を観察し把握している。事業所内で虐待はない。（言葉も含む）		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安を感じないよう、必ず十分な説明を行い、理解・納得の上で行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、時々洩らす愚痴を重く受け止め、必ず対応するようにしておる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「野バラたより」を発行し、日々の様子や近況を報告している。また、健康状態やその他のお知らせ等については、電話で報告している。利用者が家族に手紙を出すことも支援している。	○	「野バラたより」以外にも、3ヶ月に一度、詳しく日々の様子を報告する便りを出すことになった。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに、困ったことや改善すべきことはないか、聞いている。また、玄関に意見箱を設置し、自由に書いてもらっている。	○	以前から、必要性を感じながら実行に至っていないが、家族のアンケートを取り、サービスの内容や家族参加の行事等について、意見を出してもらう機会を作りたい。その結果によって、今後の行事内容など検討していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合ったり、日々の業務の中で意見や提案が出されている。すぐに話し合い、迅速な対応を心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活リズムに添った勤務体制が組まれている。また、状況の変化や要望には臨機応変に対応できている。職員もいつも協力的である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は仕方ないが、異動についてはできるだけ最小限に押さえ、新しい職員が慣れるまでは全員でフォローする。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内は月に1回、研修会を実施し参加している。法人外では、グループホーム協会や社協の研修を中心に、積極的に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業を通じて交流ができ、お互いプラスになっている。また、近くのグループホームと、月2回の利用者同士の交流、職員も随時に勉強会や話し合いなど行っている。	○	今後、更に交流の機会を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生により、ボーリング大会、バーベキュー、旅行を実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の昇給制度、人事考課など取り入れている。また、資格取得の勉強の際には、全職員の協力体制を得られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人の生活や心身の状態を把握し、ゆっくりと聞き取りを行い、希望や不安を理解するよう努めている。	○	利用者と家族の意見の相違があり、両方がうまくいくように支援していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の利用者に対する思いや現状、求めていることを理解し、受け止めることにより、信頼関係を築いていけるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に特養、ショートステイ、通所、訪問等のサービスが揃っている。また、他施設のケアマネとも連携しながら、一番良い方法を選択してもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の他施設から入居した方は、遊びに来てもらい、しばらく過ごす中で慣れていった。他施設や在宅からの方は、まず見学をしていただき、一緒に過ごしたり、居室を見ていただき雰囲気を感じていただく。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、人生の先輩としていろいろなことを教えていただき、助け合い、支え合う中で信頼が生まれ、家族のような温かい関係ができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の心情を理解し、お互い相談し合う関係を築いている。本人の生活を共に支えていく姿勢を常に心がけている。	○	利用者本人と家族の触れ合う機会を増やしていきたい。行事や面会に来てくださる家族は、いつも決まった方であるため、交流のない方において、支援をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	あまり良い親子関係でなかった方も、職員からの働きかけで心を開き、面会や参加が増えた方もいる。また、本人が手紙を出すことを支援したことで、疎遠だった家族とも繋がりが持て、何度も手紙を頂いた。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの場所への訪問、住んでいた家に行ったり、古くからの友人と会ったり、手紙や電話など様々な方法で支援を続けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の、個性に合った仲良しグループが自然にできている。孤立しがちな方は、職員が配慮し自然に入っていけるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に面会に行ったり、家族の方には手紙や電話など、関係を継続し必要があれば対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。迅速な対応が無理な場合は、職員全員で話し合い、より良い方法を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活や回想法を通して、本人から馴染みの暮らし方を聞くことができる。家族にも時間をとってもらい、生活歴や生活環境などを詳しく聞かせていただき、記録している。	○	聞き取りを行い、家族より情報をもらっているが、今後も継続して昔の話や生活歴を聞きだしていき、センター方式に書き込んでいく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	多角的に注意深く観察し、現状を正しく把握できるよう努めている。特に認知症が進行している方は、状態が定まらず不安定であるため、変化を逃さず、全員で共有し対応に当たっている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望に添うことを優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師等の意見も反映している。また、センター方式を取り入れている。	○	家族の意見や希望を聞いているが、ほとんどが現状で良いとの返答であり、たまに意見をいただく程度である。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、実施状況を評価し、家族にも見てもらっている。3ヶ月に1回は必ず介護計画を作成し、3ヶ月にならなくても、状態の変化に合わせて随時見直しを行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等、詳しく介護記録に記入している。全職員が必ず内容を読み、介護計画の実施状況等も記録し、活かしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な医師の往診、他病院への通院の支援等、対応している。今のところ利用はないが、ショートステイ利用が可能な体制になっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを行っており、学生や書道の先生など様々である。周辺の施設や消防等とも連携を図るよう努めている。	○	今後、更なる協働が必要だと思われる。地域の交流、特に子供の情操教育には、高齢者の存在が不可欠であると思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部のケアマネとも連携を図り、様々な情報をいただいている。図書館利用や町内会の行事参加、訪問美容サービスも活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して様々なアドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族に必ず確認し、希望する病院に受診し、継続した治療と通院も対応している。	○	利用者の高齢化、重度化に伴い、医療との連携強化の必要性を感じる。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師と良い関係が作られており、随時相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回定期的な訪問があり、バイタル測定、状態観察、相談など行っており、9名の利用者の把握ができている。それ以外にも必要に応じて訪問し、処置など対応がある。介護計画作成時も意見をもらっている。また、隣の特養の看護師の協力も得られている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻繁に連絡を取り合い、協働している。また、度々面会に行き状況を把握するよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応の指針を定め、家族への説明を行っている。医師からの説明も実施し、状態の変化に合わせて随時連絡を取り合っている。また、重度化に対しても本人や家族の希望を優先し、できる限り対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けて、職員の連携、力量、他の利用者への影響等、様々なことを考慮し、体制作りに取り組んでいる。重度化した方については、家族の意向を優先し、医師、看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、医師や関わるケア関係者間で十分に話し合い、情報を提供している。今までの暮らしが継続できるよう、連携を図り対応している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけている。常に尊敬の念を持ち接している。また、記録などに関しても取り扱いには全職員が十分に配慮しており、個人情報保護の勉強会にも参加している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定ができ、希望を表せる利用者については、選んだり決めたりすることをゆっくりと待ち、職員側から決めることはない。表せない方も、表情から読み取ったり、日によっては首を振って知らせてくれることもあるため、必ず希望を聞くようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりはなく、その日の状態に合わせて「したいこと」ができるよう支援したい。また、個々のペースや個々の希望に合わせた支援を行っている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々に希望する美容院に行ったり、更衣介助の時には、本人に服を選んでもらっている。その人らしい、おしゃれができていると思う。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、片付けと、活き活きとした表情で行っている。職員は教えてもらいながら、感謝の気持ちをいつも伝えるうようにしている。食事は一緒にいただいている、		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日、晩酌をしている方が1名いる。コーヒーやその他の嗜好品も好みに合わせて、毎日楽しめるよう支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録をつけることにより、排泄のリズムが把握でき、失禁が減ったために紙パンツから布のパンツに変更になった方もいる。また、プライドを傷つけない言葉かけなど十分に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16時30分頃から就寝前まで入浴時間を取っており、入浴の好きな方は毎日入っている。個々の好みの湯加減や習慣を大事にしている。	○	男性職員が2名いるため、入浴介助に入ることになるが、抵抗のある方については女性職員が交代して介助に当たることにしている。重度で浴槽に浸かる時に、職員が二人で抱える方もいるため、全員を同姓介助にすることは無理である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促すことも必要であるが、好きな時に昼寝や休息をとってもらっている。夜間は、安心して眠れるような言葉かけを心がけており、室内温度や照明を個々の好みに合わせている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や昔からの行事や慣わしの準備など、職員にはできないことをお願いし、教えてもらい一緒に行っている。それぞれに得意なこと（裁縫・習字・絵・農作業など）をしてもらうことで自信に繋がっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、一人ひとりの力量や希望に応じて支援している。ほとんどの方が少額だけ自分で持ち、おやつ等の買い物をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、買い物、ドライブ、散歩、外食、墓参りなどの外出を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族参加の遠足、夏には阿波踊り見物、ホタルや花火大会等の夜間の外出も行っており、とても喜ばれている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状態に合わせて、電話や手紙のやり取りができる支援を行っている。家族より、電話や手紙をいただくこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問した際には、自室でゆったりと過ごしていただくことが多い。慣れた方であれば、ホールで他の入居者を交えて談笑している。また、ケアハウスの喫茶コーナーを利用し、落ち着いて過ごすこともできる。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の安全を確保しながら、様々な工夫により身体拘束をしないケアを実践している。また、勉強会に参加し、身体拘束に関する理解も深めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階であるが、日中はどのドアにも鍵をかけていない。ドアの開閉時に音楽がなるセンサーをつけている。鍵をかけないことで、気分的に開放され、落ち着いているように感じる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけや、さりげない見守りで全員の状態を把握するように努めている。夜間は1～2時間毎に確認し、いつも全体が見渡せる場所で配置している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤は手の届かない場所に保管し、包丁は夜間は鍵のかかる場所に保管している。針やはさみは、入居者が常に使用しているが、使用後の保管には気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために個々に合わせた様々な工夫をしている。ヒヤリハットを記録し、全職員が問題意識や危機感を持って日々の業務にあたっている。事故後は、原因の究明と今後の対応策を話し合い、再発防止に取り組んでいる。	○	事故の中には、防ぎようのない場合と、職員間の報告ミスや少しの気のゆるみ、気付きがないことが原因の場合もある。繰り返しの指導や意識づけが必要である。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回勉強会が実施され、緊急時の対応や応急手当など学んでいる。消防署のセミナーに参加したり、AEDの講習会に来てくれている。夜勤時はマニュアルに沿って周知徹底を図っている。	○	定期的に行っているが、不安を感じている職員は多いと思われるため、応急手当や対応の訓練の機会をふやしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者と共に避難訓練を行っている。1回は消防署の職員にも参加していただき、初期消火から避難誘導、その他の留意点や全体的なことを指導してもらっている。	○	19年度より、防災委員会が発足し、災害による対処、地域の方々の拠点となるよう具体的な計画や準備を進めている。また、地域の方を交えた防災訓練の必要性を感じている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについて職員間でも話し合い、適切な対応ができるよう見直し等行っている。家族には、現状や抑制のない暮らしの大切さを理解していただいている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状態や、持病等を把握しており、変化や異常の発見に努め、速やかに報告や対応ができることの重要性を理解し、実行できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬内容が分かるファイルがあり、把握している。変更時には必ず確認できている。確実な服薬のために二重のチェックをしている。また、状態観察や医師との連携に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食前に毎朝牛乳を飲んだり、水分摂取や適度な運動を行っている。水分量の少ない方には寒天ゼリーを作り、一日3回食べており、効果が現れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力量や状態に応じた方法で、毎食後確実に口腔ケアを実施できている。義歯は夜間に洗浄剤に浸けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量とも記録し、把握ができている。一人ひとりの咀嚼や嚥下、嗜好に合わせた食事を提供している。また、併設施設の栄養士の助言をもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルがあり、定期的な勉強会を行っている。流行や対応等の新しい情報を取り入れ、予防に努めている。また、掲示や唱和により手洗い、うがいを徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やその他の調理に関する物品の消毒、乾燥などマニュアル通りに実施している。自家農園で採れた野菜を使ったり、度々買い物に行き、新しい食材を使用している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には木のベンチや手作りの表札、ドアを開ければ季節の花や手作りの壁掛け、熱帯魚など温かい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、季節の花や物品、利用者の作った作品を飾っている。ホールには畳を敷き、洗濯たたみをしたり、寝転がっているなど寛ぎの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って話をしたり、テレビを見たりと、気の合う人同士、一緒に過ごしている。また、離れた場所でベンチに座り、一人で好きなように過ごすこともできる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真、畳の設置など一人ひとりの好みに合わせている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け、空気の入れ替えを行っている。日中の換気は、随時または利用者の外出中などに行っている。温度調節は個々に合わせて行い、共用部は外気温との差に気をつけている。トイレも換気し、芳香剤を使用している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、テーブル、椅子の配置、利用者の目の高さを考えたレイアウトなど配慮している。居室に洗面所、トイレがあることで、自らの排泄行為が可能になっている方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱する前に個々に合わせた声かけを行い、安心して暮らせるよう支援している。目印や物品、その他の環境の改善で落ち着くことがあれば、それぞれに工夫している。	○	認知症の進行に伴い、現在は特に重要な項目である。できること、分かる力を活かして、不安な気持ちを取り除き、自信を持ち安心して生活してほしい。そのためには、職員が機転を働かせ、様々な方向からの支援を行い、状況を的確に見極めることが重要である。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	農園や洗濯、布団干し、干し柿や玉葱をかけたりと、日々の暮らしの中で活用している。また、木のベンチに座り、ゆったりと過ごすこともある。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの個性、心身の状態に合った支援が、毎日の生活の中で行えている。例えば、食事面では個人の嗜好を重視し、代替食として献立以外のものも調理している。入浴は、夕方から就寝前までの時間帯に行い、家庭に近づいている。また、一日の生活の流れも個々のリズムを大切にし、朝ゆっくりと寝て、朝食を後から食べる方もいれば、夜遅くまでテレビを見たり、昼寝をしたり等、身体に無理がない範囲内で本人の好きなように過ごしてもらっている。家事や得意なことをしてもらっている時は、とても活き活きとしており、外出時も笑顔が多く見られ、気分転換になっている。職員は、利用者に対して常に尊敬と思いやりの気持ちで接し、温かい馴染みの関係ができている。家族様からも「野バラにいたら安心して任せられる」と嬉しい言葉をよくいただく。職員同士のチームワークの良さも、ホームの温かい雰囲気に繋がっていると思う。